

愛媛県におけるキウイフルーツかいよう病(Psa3系統)の発生

本年4月、キウイフルーツかいよう病の新系統**Psa3系統**の発生が国内で初めて確認された。県内では、これまでPsa1系統のみで発生であったが、新たにPsa3系統の発生によりキウイフルーツ栽培に大きな影響が懸念される。

Psa3系統はこれまでのPsa1系統よりも病原性が強い傾向であり、海外においても発生地域の拡大は早く、また被害も甚大である。なお、現在愛媛県を含め7県で発生が確認されている。

タイプ	発生国	病原性の強さ
Psa1 (従来型)	日本(1984) イタリア(1992)	強い
Psa2	韓国	強い
Psa3	NZ、イタリア、チリ、中国等、 愛媛県など	かなり強い
Psa4	NZ、オーストラリア	弱い
Psa5	佐賀県(2010)	やや弱い



1. 主要な品種はすべて発病する。
2. 黄色系品種「Hort16A」、レインボーレッドの被害が激しい。

Psa1系統よりPsa3系統で枯死が早い

病原性が強い